

防災ボランティア活動検討会
長岡における災害時の
多様な主体との連携

社団法人中越防災安全推進機構
地域防災力センター
チーフコーディネーター 河内 毅

被災時対応検討会

【目的】

災害発生時におけるスムーズな被災地支援活動を目指して、関係各機関の役割を明確にし、緩やかなネットワークを構築する。

【ポイント】

- 普段から顔の見える関係づくり 互いに助け合える状態
- 行政主導ではなく、民（中越防災機構）が主導
- 定期的に議論（平成22年；7回、平成23年；4回、平成24年5回）
※平成24年より長岡市の委託を受け、災害支援活動検討会として実施

H16年 中越地震

様々な団体が**独自**に被災地・被災者支援を実施



団体間の支援活動の連携があまりなされなかった。
(テーマ型コミュニティ支援⇄地縁型コミュニティ)

被災時対応検討会メンバー



協働型災害ボランティアセンター（長岡方式） コンセプト

一 公設民営

原則として災害ボランティアセンターの設置場所は行政が準備し、民がその運営を担う。

一 協働・連携

- 災害ボランティアセンターの設置・運営は、**長岡市社会福祉協議会を主体として、市内関係団体等との協働**により実施する。
- 災害ボランティアセンターの構成団体が**それぞれの強みを生かし、連携・協働**して運営を行う。
例) 社協…ボランティア受付、マッチング、事務局機材の準備等

市内情報系NPO…情報発信

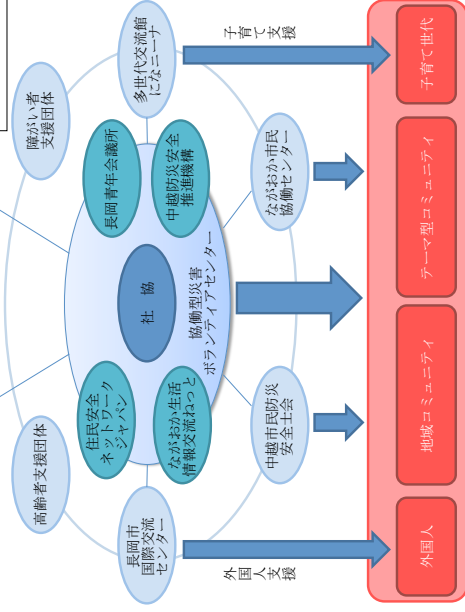
青年会議所…支援物資手配、配送等

行政…VCの設置場所の確保、資機材の手配等

etc...

協働型災害ボランティアセンター（長岡方式） イメージ図

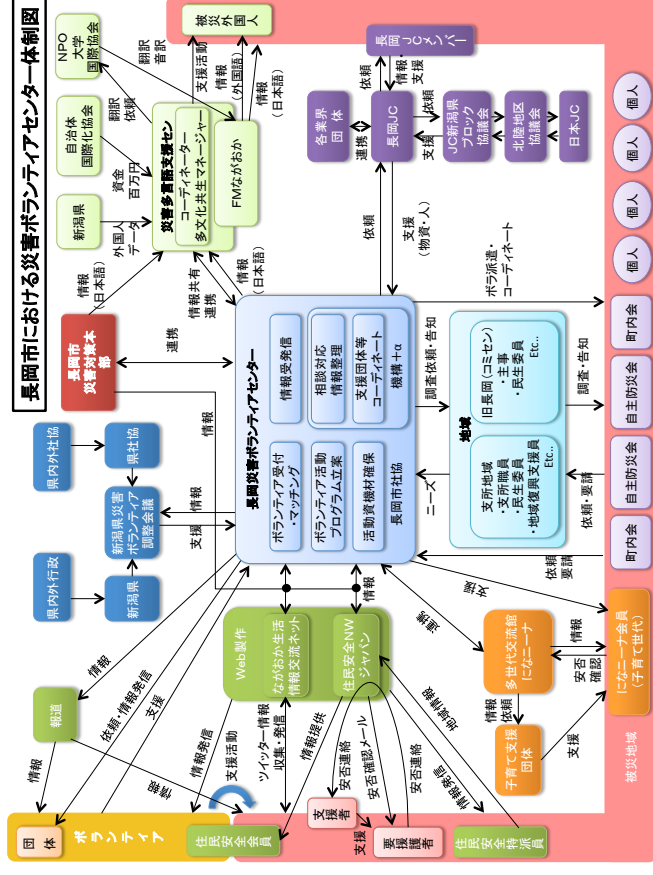
災害VCに所属する団体がそれぞれの特徴やネットワークを活かして主体的に災害支援活動を行う。



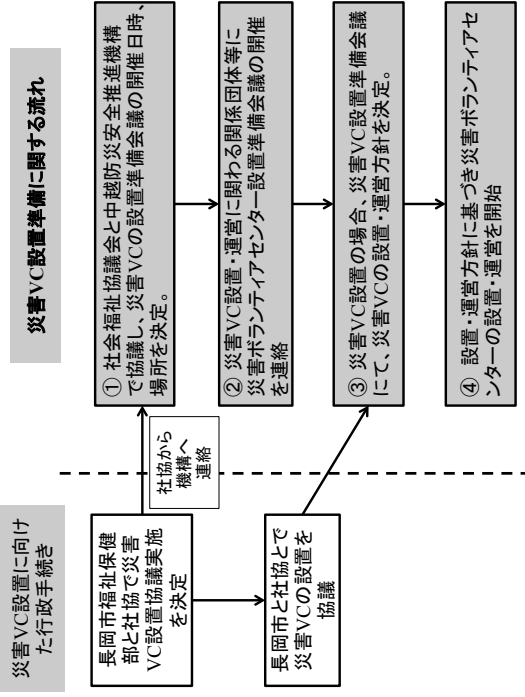
協働型災害ボランティアセンター（長岡方式） コンセプト

一 協働・連携

- 町内会や自主防災会のような**地縁型コミュニティ**や、サークルや障がい者団体などの**テーマ型コミュニティ**と**連携・協働**することで、**本当に支援が必要とされる**ところに手を差し伸べられるようにする。また、地域の共助力を削ぐような**過度な支援を行わない**。
- 災害ボランティアセンターの運営に関わる団体が、それぞれの**団体の持つネットワークを活用し**、情報の受発信を行うことで、外部からの支援を円滑に受け入れると共に**支援のフィードバック**としての役割を果たす。

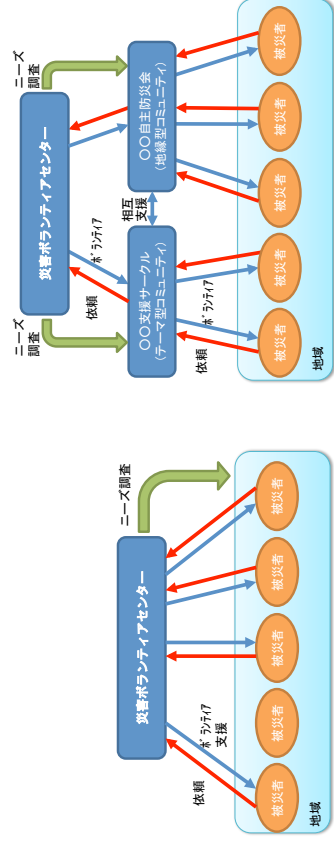


協働型災害ボランティアセンター 設置手順 ー災害ボランティアセンターをいつ立ち上げるのか？ー



被災者・被災地支援の考え方

従来型の災害ボランティアセンター方式によるニーズ収集やマッチングも実施するが、通常の方式では、支援が必要な世帯に支援が行き届かなかったり、本来ならば支援の必要のない世帯に支援が入ったりすることで、地域の共助を逆に阻害してしまうことも考えられる。そこで、可能な限り町内会や自主防災会といった地域コミュニティなどと連携を図りつつ支援活動を実施することで、地域共助を阻害することなく、支援が必要となるところへ支援が届けるようにコミュニティと連携した災害支援体制を築く。



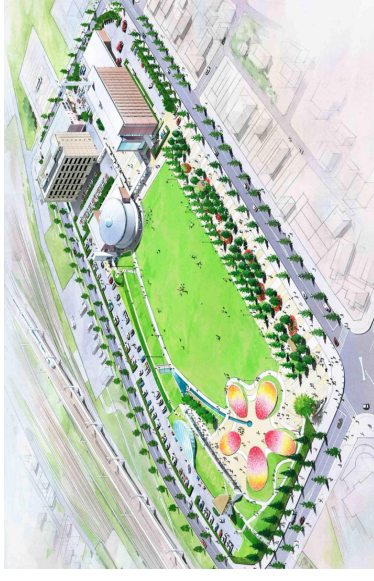
従来型災害ボランティアセンター

コミュニティ連携型災害ボランティアセンター

協働型災害ボランティアセンター 設置場所 ー災害ボランティアセンターをどこに立ち上げるのか？ー

災害ボランティアセンターは基本的にはなががおか市民防災センターに設置する。

ただし、災害発生地域が支所地域の場合は、支所地域に設置し、なががおか市民防災センターはバックアップ拠点とするなど、臨機応変に対応を行う。



ボランティア募集

ボランティア募集は災害ボランティアセンターが設置された後、**広く市内外の一般市民**に対してボランティアの募集を行う。また、東日本大震災以後、ボランティアの集まりが悪くなっていることもあることから、平時から災害ボランティアの**団体や企業登録**を行い、災害ボランティアセンター立ち上げ後、すぐにボランティア活動が開始できる体制の構築を目指す。

情報収集・発信

- ・災害ボランティアセンターに関する情報発信は、**市内情報系NPO**（NPO法人ながおか生活情報交流ネット、NPO法人住民安全ネットワークジャパンの）の協力の下、ホームページやFacebook、ツイッターなどを通じて情報発信を行う。
- ・災害ボランティアセンターの構成団体は、**それぞれ**の**ネットワークを活用**して被災地域の情報収集やボランティア募集の情報発信などを実施する。

平成23年3月11日
東日本大震災 発生

行政との連携

災害ボランティアセンター設置場所の確保

長岡市は災害ボランティアセンターと協議の上、災害ボランティアセンターを設置する公共の場所を指定する。

情報の共有

長岡市災害対策本部へ社会福祉協議会職員等の災害ボランティアセンタースタッフを配置することで情報共有を図る他、長岡市より随時災害ボランティア活動に必要な情報の提供を受ける。

活動資機材の確保・調達

災害ボランティア活動に必要な資機材に関しては、市が保有しているものを災害ボランティアセンターに貸与するなど、臨機応変に対応する。

機能が異なる2つのセンター

・ 長岡災害支援ボランティアセンター

- － 東日本大震災の**避難所**が**長岡市内に開設**されたことに伴い、被災者への支援活動を行う**ボランティアの調整**を行う。

・ 東日本大震災ボランティアバックアップセンター

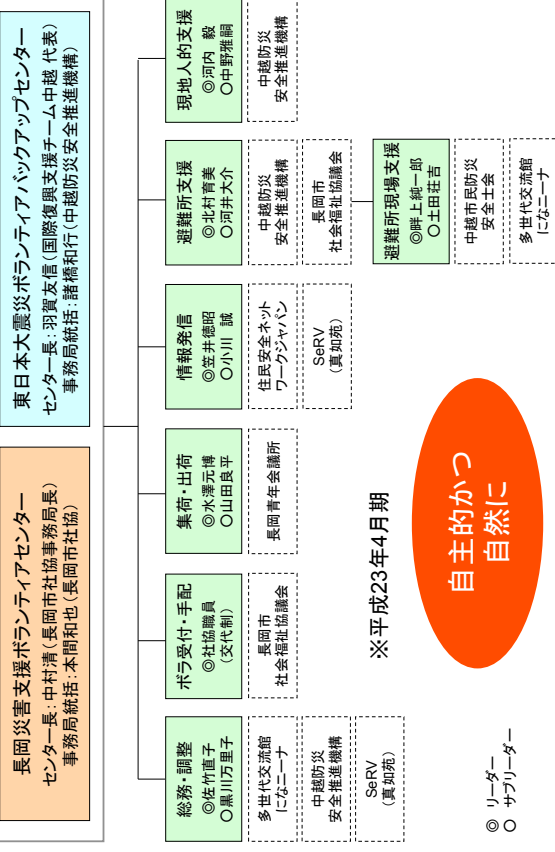
- － 東日本大震災の被災地で**支援活動を行う団体等**に対して、**長岡を拠点**に、救援物資の補給、情報の集約・発信、支



ハウの提供等を行う。

一体的に運営

協働型運営（公設民営）



3月15日 17:00 震災4日目



3月17日 9:00 震災6日目



3月18日 14:00 震災7日目



実績:ボランティア

- ・活動期間 **3月19日～6月16日 (91日間)**
- ・総登録者数 **1,644人** (長岡市民に限定)
- ・延べ活動人数 **3,755人**
- ・日最大活動数 **124人** (4月3日)
- ・日平均活動数 **41.1人**

このほか、センターを介さない
個人ボランティアや
団体ボランティアも多数あり！



足湯ボランティア

実績:支援物資

- ・活動期間 **3月18日～5月24日 (68日間)**
- ・延べ入荷数 **2,708件**
- ・出荷件数 **158回 (45日)**
- ・出荷重量 **169.4トン**

避難者が直接取りに来た
ケースも多数あり！



ボランティアバックアップセンター活動募金

- ・総額 **1,910,541円** (6月末時点)

学生国際協力団体USAY	長岡商工会議所女性会
独立行政法人 国際協力機構	未来を語るビーナスネット
長岡市小国町桐沢集落	新潟アピの会
長岡市小国町八王子集落	美沢4丁目町内会
長岡市斎場運営協議会	悠久礼送株式会社
長岡市消費者協会	ワコーシウカイ カワグチ
長岡ライオンズクラブ	NPO法人 市民活動センター
長岡蒼柴ライオンズクラブ	NPO法人 多世代交流館になーナ
長岡柏ライオンズクラブ	その他 個人多数
長岡長生ライオンズクラブ	

今後の検討課題

- ・支所地域で災害が発生した場合のボランティアセンター設置場所
- ・支所地域やコミュニティセンター単位などでのネットワーク形成
- ・災害時に協力が得られる、広範なネットワークの強化(獣医師会、建築士、保健師、民生委員など)
- ・各分野のコーディネーターとそれをまたぐスーパーバイザー等の人材育成
- ・自主防災会、コミセンとの連携強化
- ・避難所へ行けない人、行っても追いつかれる可能性のある災害時要援護者(高齢者、障がい者、子どもなど)への対応の検討
- ・各地域における避難所運営

多様な主体との連携のポイント

- 支援団体間の顔の見える関係と信頼関係の構築
⇒各団体の特徴の把握
- 災害ボランティアセンターのコンセプトとミッション、
ならびに最低限のルールの明確化



各団体の主体的な災害支援活動と団体間の協働・連携へ

平成 25 年 3 月 15 日

(社) 中越防災安全推進機構 地域防災力センター

被災時対応検討会／災害支援活動検討会 これまでの議論のまとめ

1. 災害ボランティアセンターの役割

長岡市における災害ボランティアセンターは、原則として長岡市内で災害が発生※した際に、被災地域の円滑な復旧・復興のために、関係団体の力を結集し、市内外からのボランティアの受け入れや調整を実施するために設置されるものである。

※ 他市町村等で広域災害が発生した場合などにおいても、市内への避難者の受け入れや他市町村への物資支援等の必要が生じた場合は、状況に応じて設置要否を判断する。

2. 長岡市における災害ボランティアセンターのコンセプト

－公設民営－

- 原則として災害ボランティアセンターの設置場所は行政が準備し、民がその運営を担う。

－協働・連携－

- 災害ボランティアセンターの設置・運営は、長岡市社会福祉協議会を主体として、市内関係団体等との協働により実施する。

→災害ボランティアセンターの設置・運営を担う団体は、「災害支援活動検討会」などを通して、平時から顔の見える関係を構築しておくことが重要。

- 災害ボランティアセンターの構成団体がそれぞれの強みを生かし、連携・協働して運営を行う。

例) 社協…ボランティア受付、マッチング、事務局機材の準備等

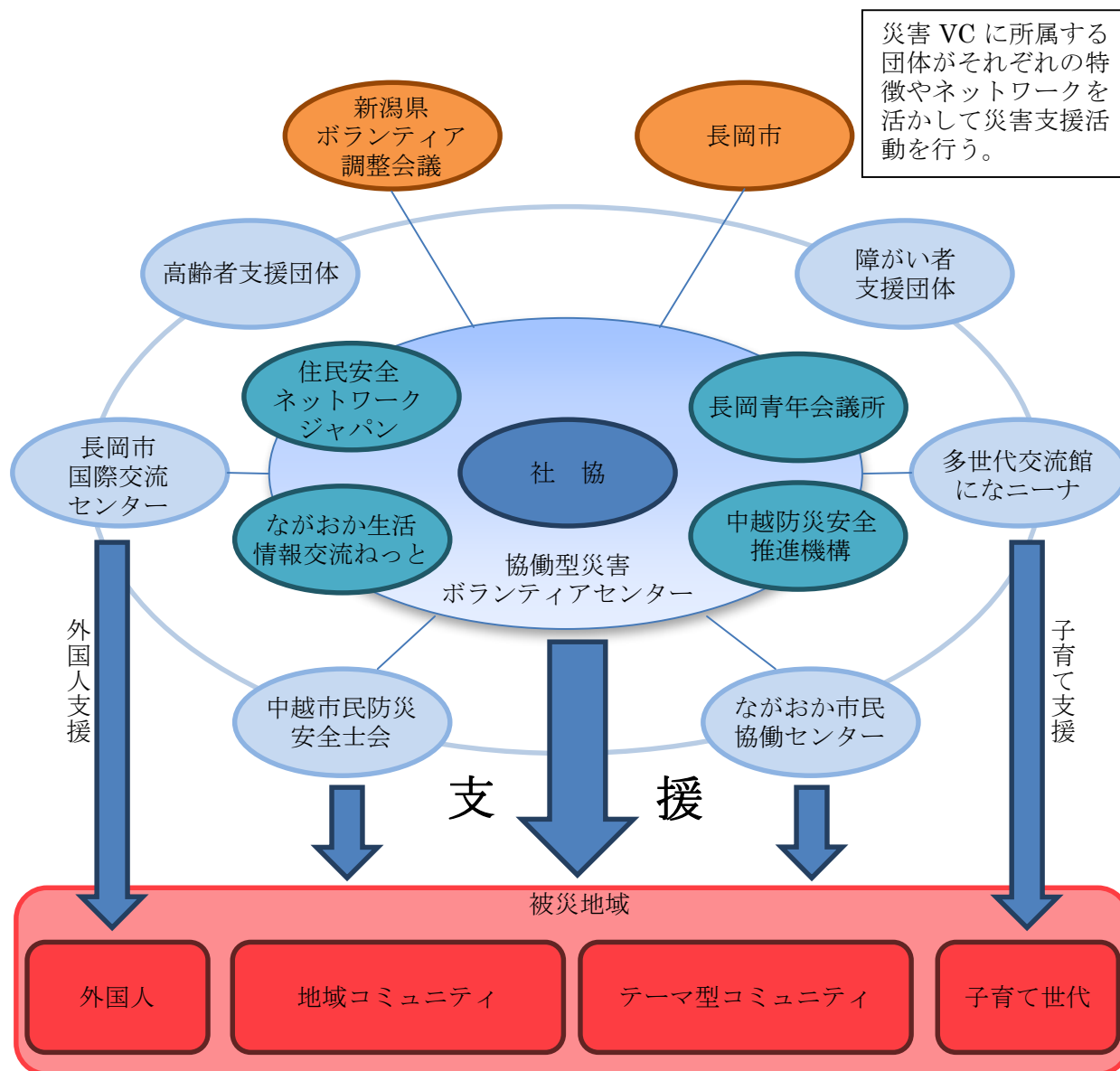
市内情報系 NPO…情報発信

青年会議所…支援物資手配、配送等

行政…ボランティアセンターの設置場所の確保、資機材の手配等

etc...

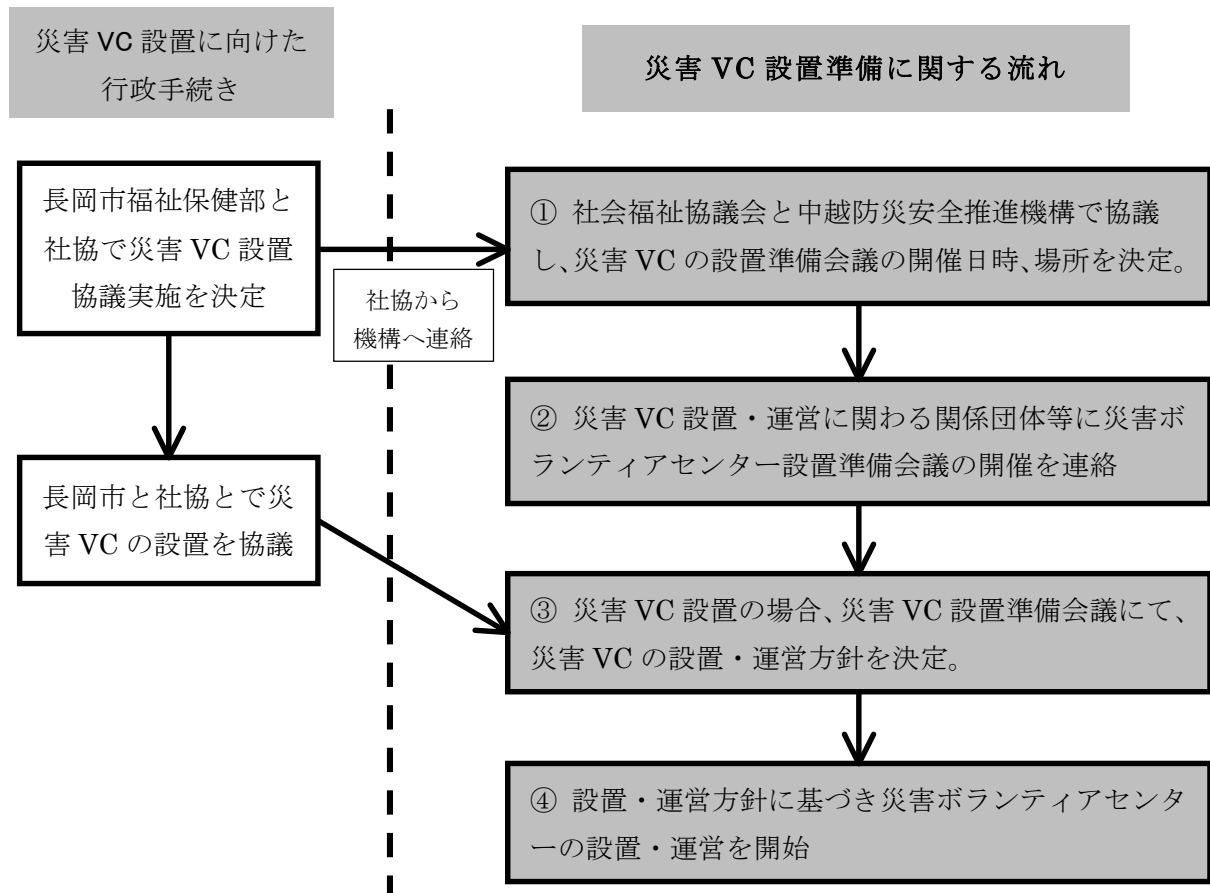
- 町内会や自主防災会のような地縁型コミュニティや、サークルや障がい者団体などのテーマ型コミュニティと連携・協働することで、本当に支援が必要とされるところに手を差し伸べられるようにする。また、地域の共助力を削ぐような過度な支援を行わない。
- 災害ボランティアセンターの運営に関わる団体が、それぞれの団体の持つネットワークを活用し、情報の受発信を行うことで、外部からの支援を円滑に受け入れると共に支援のフィルターとしての役割を果たす。



協働型災害ボランティアセンターのイメージ図

3. 災害ボランティアセンターの設置手順

災害ボランティアセンターの設置の流れは以下の通り。



4. 災害ボランティアセンターの設置場所

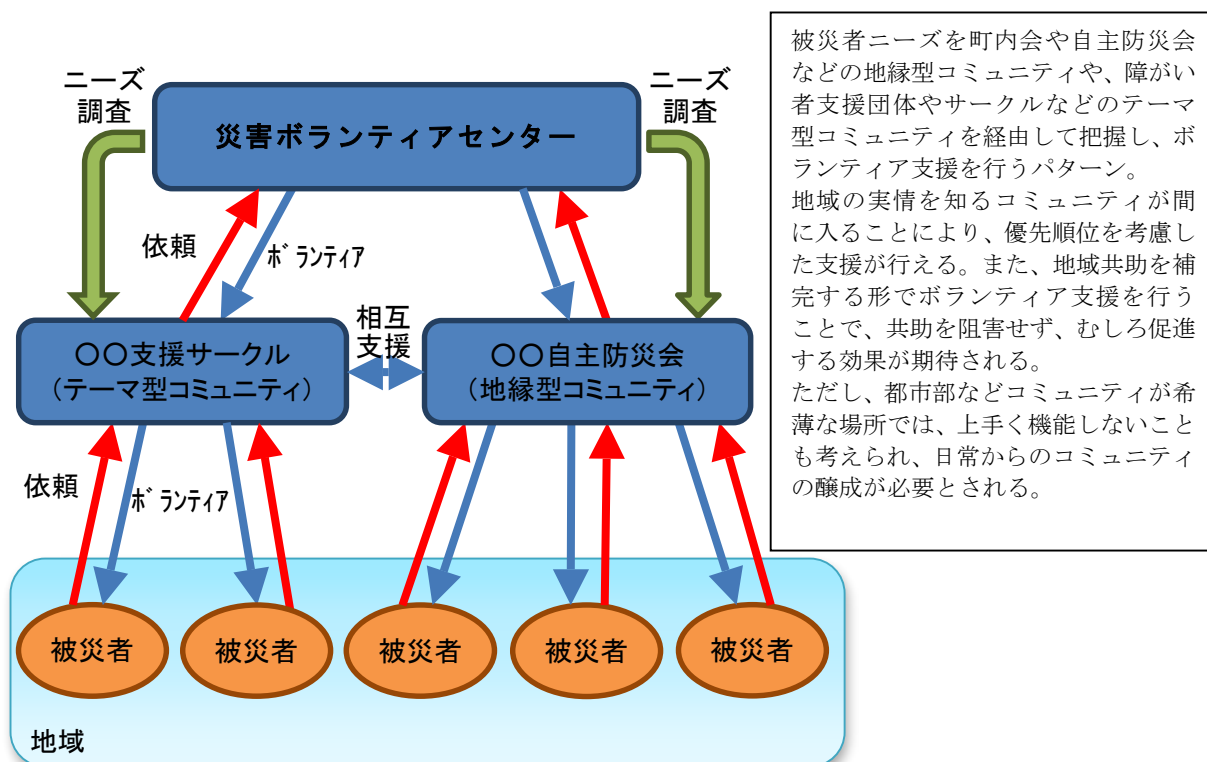
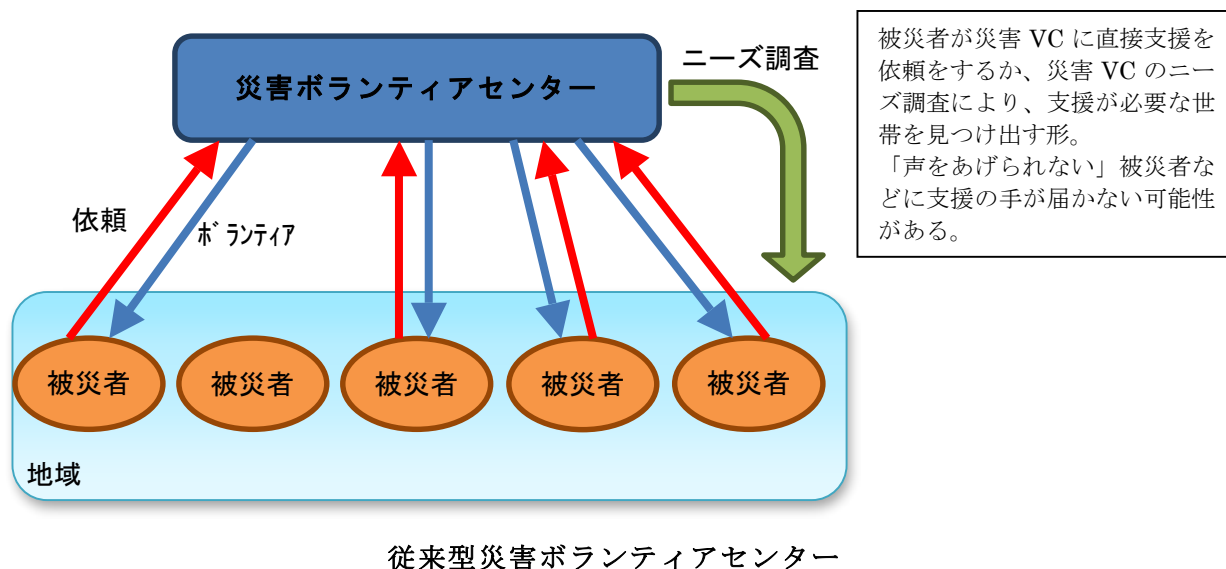
災害ボランティアセンターは基本的にはながおか市民防災センターに設置する。

ただし、災害発生地域が支所地域の場合は、支所地域に設置し、ながおか市民防災センターはバックアップ拠点とするなど、臨機応変に対応を行う。

5. 被災地・被災者支援について

災害ボランティアセンターによる被災者支援は、従来型の災害ボランティアセンター方式によるニーズ収集やマッチングも実施するが、通常的方式では、支援が必要な世帯に支援が行き届かなかったり、本来ならば支援の必要のない世帯に支援が入ったりすることで、地域の共助を逆に阻害してしまうことも考えられる。

そこで、可能な限り町内会や自主防災会といった地域コミュニティなどと連携を図りつつ支援活動を実施することで、地域共助を阻害することなく、支援が必要なところへ支援が届けられるようにコミュニティと連携した災害支援体制を築く（下図参照）。



コミュニティ連携型災害ボランティアセンター

6. ボランティア募集について

ボランティア募集は災害ボランティアセンターが設置された後、広く市内外の一般市民に対してボランティアの募集を行う。また、東日本大震災以後、ボランティアの集まりが悪くなっていることもあることから、平時から災害ボランティアの団体や企業登録を行い、災害ボランティアセンター立ち上げ後、すぐにボランティア活動が開始できる体制の構築を目指す。

7. 情報収集・発信

- 災害ボランティアセンターに関する情報発信は、市内情報系 NPO（NPO 法人ながおか生活情報交流ねっと、NPO 法人住民安全ネットワークジャパン）の協力の下、ホームページや Facebook、ツイッターなどを通じて情報発信を行う。
- 災害ボランティアセンターの構成団体は、それぞれのネットワークを活用して被災地域の情報収集やボランティア募集の情報発信などを実施する。

8. 長岡市との連携

災害ボランティアセンター設置場所の確保

長岡市は災害ボランティアセンターと協議の上、災害ボランティアセンターを設置する公共の場所を指定する。

情報の共有

長岡市災害対策本部へ社会福祉協議会職員等の災害ボランティアセンタースタッフを配置することで情報共有を図る他、長岡市より随時災害ボランティア活動に必要な情報の提供を受ける。

活動資機材の確保・調達

災害ボランティア活動に必要な資機材に関しては、市が保有しているものを災害ボランティアセンターに貸与するなど、臨機応変に対応する。

9. 運営資金

災害ボランティアセンターの運営資金は主として以下の方法により調達する。

- 中央共同募金会からの災害等準備金の活用（上限 300 万円）
- 各種財団等からの資金提供の申し入れ
- 独自の活動支援金募集のための募金の実施

10. 災害ボランティアセンター活動実績

平成 22 年度

雪害ボランティアセンター

- | | |
|-------|---------------------------|
| ○設置日 | 平成 23 年 1 月 31 日（月） |
| ○設置場所 | ながおか市民防災センター |
| ○活動期間 | 平成 23 年 2 月 4 日（金）～6 日（日） |
| ○支援対象 | 自力での除雪作業が困難な世帯 |

- 活動内容 玄関先、避難口、住宅周りの除雪作業、屋根雪の雪下ろし（危険が伴う場合は対象外）
- 除雪件数 47 件
- ボランティア数 実人数 174 人（延べ 205 人）
- 主要運営団体 長岡市社会福祉協議会、（特活）ながおか生活情報交流ねっと、（特活）住民安全ネットワークジャパン、（特活）にいがた災害ボランティアネットワーク、（社）中越防災安全推進機構、協力；県内社協

長岡災害支援ボランティアセンター／東日本大震災ボランティアバックアップセンター

- 概要

長岡災害支援ボランティアセンター；東日本大震災の避難所が長岡市内に開設されたことに伴い、被災者への支援活動を行うボランティアの調整を実施。

東日本大震災ボランティアバックアップセンター；東日本大震災の被災地で支援活動を行う団体等に対して、長岡を拠点に、救援物資の補給、情報の集約・発信、支援者のコーディネート、ノウハウの提供等を実施。
- 設置日 平成 23 年 3 月 17 日（東日本大震災ボランティアバックアップセンター）
平成 23 年 3 月 18 日（長岡災害支援ボランティアセンター）
- 設置場所 ながおか市民防災センター
- 主要運営団体 長岡市社会福祉協議会、（特活）住民安全ネットワークジャパン、（社）長岡青年会議所、中越市民防災安全士会、（特活）多世代交流館になニーナ（社）中越防災安全推進機構、協力；SeRV

ボランティア活動

- 活動内容 支援物資の仕分け・積み込み、避難所運営支援など
- 活動期間 3 月 19 日～6 月 16 日（91 日間）
- 総登録者数 1,644 人（長岡市民に限定）
- 延べ活動人数 3,755 人
- 日最大活動数 124 人（4 月 3 日）
- 日平均活動数 41.1 人

被災地への物資支援

- 活動期間 3 月 18 日～5 月 24 日（68 日間）
- 延べ入荷数 2,708 件
- 出荷件数 158 回（45 日）
- 出荷重量 169.4 トン
- 活動連携先 GAMBARO ↑ MIYAGI 宮城復興支援センター、SAVE IWATE など

平成 23 年度

雪害ボランティアセンター

- 設置日 平成 24 年 1 月 30 日（月）

- 設置場所 ながおか市民防災センター
- 活動期間 第1次；平成24年2月1日（水）～5日（日）
第2次；平成24年2月11日（土）～12日（日）
- 支援対象 自力での除雪作業が困難な世帯
- 活動内容 玄関先、避難口、住宅周りの除雪作業屋根雪の雪下ろし（危険が伴う場合は対象外）
- 除雪件数 第1次；43件、第2次；43件
- ボランティア数 第1次；240人、第2次；234人
- 主要運営団体 長岡市社会福祉協議会、（特活）住民安全ネットワークジャパン、（社）長岡青年会議所、（社）中越防災安全推進機構

11. これまでの経過（被災時対応検討会から災害支援活動検討会へ）

平成22年度 第1回被災時対応検討会（平成22年7月）

【討議内容】検討会の趣旨ならびに今後の検討会の進め方について

平成22年度 第2回被災時対応検討会（平成22年9月）

【討議内容】検討会参加団体の過去の災害時の対応・活動について

平成22年度 第3回被災時対応検討会（平成22年10月）

【討議内容】災害ボランティアセンター開設に向けて。実施内容と課題

平成22年度 第4回被災時対応検討会（平成22年11月）

【討議内容】被災時における各機関の対応について

平成22年度 第5回被災時対応検討会（平成22年12月）

【討議内容】これまでの議論の中間とりまとめ、災害ボランティアセンターの形について

平成22年度 第6回被災時対応検討会（平成23年2月）

【討議内容】雪害ボランティアセンター開設の経緯、その課題と今後の対応策について

平成22年度 第7回被災時対応検討会（平成23年3月）

【討議内容】雪害ボランティアセンターの検証

平成23年度 第1回被災時対応検討会（平成23年9月）

【討議内容】東日本ボランティアバックアップセンター／長岡災害支援センターにおける活動、新潟・福島豪雨水害における活動について

平成23年度 第2回被災時対応検討会（平成23年12月）

【討議内容】豪雪に備えた雪害ボランティアセンターの設置・運営について、福島から避難されてきている方への支援について

平成23年度 第3回被災時対応検討会（平成24年2月）

【討議内容】雪害ボランティアセンターの活動振り返り

平成24年度 第1回協働型災害支援活動検討会（平成24年6月）

【討議内容】長岡協働型災害ボランティアセンターについて、これまでの議論内容と論点の整理

平成24年度 第2回災害支援活動検討会（平成24年8月）

【討議内容】 災害ボランティアの常設化の可能性について

平成 24 年度 第 3 回災害支援活動検討会（平成 24 年 10 月）

【討議内容】 被災時の検討から平時の減災のための検討へ、各団体の平時の活動を踏まえた連携の可能性について

平成 24 年度 第 4 回災害支援活動検討会（平成 24 年 12 月）

【討議内容】 防災&交流フェアの振り返り、雪害ボランティアセンターの設置準備について

平成 24 年度 第 5 回災害支援活動検討会（平成 25 年 2 月）

【討議内容】 長岡方式・協働型災害ボランティアセンター設置・運営ガイドラインについて

※平成 22 年度の被災時対応検討会は「中越大震災復興基金」を活用して実施。

平成 23 年度の被災時対応検討会は資金なし（参加団体の各自負担）

平成 24 年度の災害支援活動検討会は長岡市の委託事業として実施。

12. 今後の検討課題

- 支所地域で災害が発生した場合のボランティアセンター設置場所
- 支所地域やコミュニティセンター単位などでのネットワーク形成
- 災害時に協力が得られる、広範なネットワークの強化（獣医師会、建築士、保健師、民生委員など）
- 各分野のコーディネーターとそれをまたぐスーパーバイザー等の人材育成
- 自主防災会、コミセンとの連携強化
- 避難所へ行けない人、行っても追い出される可能性のある災害時要援護者（高齢者、障がい者、子どもなど）への対応の検討
- 各地域における避難所運営